

参考資料 1

白川・緑川水防災意識社会再構築協議会取組工程表

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】熊本市・減災に係る取組工程表全体スケジュール		現時点												目標達成期限		令和元年8月8日更新				
作業項目		白川	緑川	29年度			30年度			31年度			32年度			33年度			備考	
幹事会 (○)				○		○		○										・赤字：取組内容の中で特に留意が必要な項目		
協議会 (◎)																				
	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築 ・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築																			
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施																			
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○	○															(継続的に実施)	・毎年タイムラインの検証と勉強会を行い、随時見直し。	
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○	○																・毎年回上訓練を「市単独」、「広域・防災関係機関合同」で行う。	
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○	○																・事前に、現状の課題を把握する。	
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底																			
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成	◎	◎																・河川の危険箇所を把握するためにも、市域のみのハザードマップではなく、河川全体での対応を検討する。	
	(広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成	◎	◎																・L2が公表されている他都市の情報収集しながら、マニュアルの検討を行い指定都市市長会や九州市長会で意見聴取し、広域避難で隣接する市町とも協議しながら作成する。	
	ハザードマップの普及・啓発	○	○																・広域に渡るしよでの浸水想定であるので、啓発する際には「映像」で浸水被害を見せるような取組みが必要となると思われる。	
	地域版ハザードマップの普及・啓発	○	○																・L2での浸水想定では避難できる場所に限られることから、十分な説明を行い理解してもらうことが課題となる。	
	水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発	○	○																・L2が公表されている他都市の情報収集しながら、マニュアルの検討を行い指定都市市長会や九州市長会で意見聴取し、広域避難で隣接する市町とも協議しながら作成する。	
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定	◎	◎																・平成32年(2020年)の防災会議で指定し、地域防災計画にL2対応の避難所を指定する。	
	1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化																			
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○	○																(継続的に実施)	・訓練内容を検討し、実際に訓練を行い課題の洗い出しで内容の見直しを繰り返すこと。
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施	○	○																(継続的に実施)	・洪水リスクが高い区間に居住する住民向け勉強会
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○	○																(継続的に実施)	・共同点検箇所を適時見直す
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施	○	○																(継続的に実施)	・出水前に実施
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施																			
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○	○																	
	緊急排水計画の策定	○	○																	
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○	○																	
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化																			
	自治体の防災担当者間の連携促進	○	○																	
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討																			
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定	○	○																	
	早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援	○	○																	
	地下街(地下空間)の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援	○	○																	
	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援	○	○																	
	大規模氾濫時に防災拠点となる各市町村庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施	○	○																	
	避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施	○	○																	
ソフト対策	・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進 ・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進																			
	2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																			
	小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○	○																	
	緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○	○																	
	白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○	○																	
	2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																			
	白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター(白川わくわくランド)の利活用の促進	○	○																	
	教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施	◎	◎																	
	市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育(市民講座、地域防災リーダー講座等)の実施	○	○																	
	住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及	○	○																	
	防災ステーションを活用した水防災教育等の実施	○	○																	
	・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の確かな防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信 ・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																			
	3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																			
	水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用促進	○	○																	
	毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○	○																	
	市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立	○	○																	
	3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																			
	多様な情報提供媒体(SNS等)を活用した、幅広い年代の方々が確実に情報を入手できる手段の検討・実施	○	○																	
	携帯端末を活用したプッシュ型情報の普及・周知	○	○																	
	地域の防災に関する情報の広報誌、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○	○																	
	関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎	◎																	
	報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○	○																	
	3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																			
	毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○	○																	
	毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○	○																	
	出水時の河川巡視情報等の共有	○	○																	
	関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備																			
	3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																			
	過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	○	○																	
	3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																			
	防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討	○	○																	
	3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																			
	備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○	○																	
ハード対策																				
	3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																			
	過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	○	○																	
	3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																			
	防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討	○	○																	
	3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																			
	備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○	○																	

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】宇土市・減災に係る取組工程表全体スケジュール		8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	令和元年8月8日時点	更新済	
作業項目		29年度	30年度	31年度	32年度	33年度											備	考
幹事会 (〇)		○	○															
協議会 (◎)			◎															
	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築																	
	・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町民を結ぶ広域避難体制の構築																	
	①避難勧告等の発令に資した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施																	
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○																
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○																
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○																
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底																	
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成	◎																
	(広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成	◎																
	ハザードマップの普及・啓発	○																
	地域版ハザードマップの普及・啓発	○																
	水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発	○																
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定	◎																
	1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化																	
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○																
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対するリスクが高い区間の共同点検の実施	○																
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○																
	水防団の人員不足の解消、水防協力団体の募集、指定の促進等の検討・実施	○																
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備、訓練の実施																	
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○																
	緊急排水計画の策定	○																
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○																
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化																	
	自治体の防災担当者間の連携促進	○																
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討																	
	大規模出水時における緊急防災連絡等の検討・策定	○																
	早期の社会機能回復に向けた民間企業RFP計画の支援	○																
	地下街(地下空間)の避難確保計画の作成、避難訓練の実施・支援	○																
	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成、避難訓練の実施・支援	○																
	大規模災害時に防災拠点となる各市町庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施	○																
	避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施	○																
ソフト対策	・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進																	
	・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防教育や啓発活動の推進																	
	2-①水害の歴史や文化の認識を高度化させないための学習機会や出前講座等の拡充	○																
	小中学校等と連携をとり、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施、拡充	○																
	緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施、拡充	○																
	白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施、拡充	○																
	2-②水害リスク・防災意識の啓発、教育																	
	白川学習・水防学習、川の安全な体験学習の「場」として白川流域防災センター(白川わくわくランド)の利活用の推進																	
	教育委員会等と連携をとり、小中学校における白川や緑川についての学習・水防教育等の実施	◎																
	市民向けの白川・緑川についての学習、水防教育(市民講座、地域防災リーダー講座等)の実施	○																
	住民団体、NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及	○																
	防災ステーションを活用した水防教育等の実施	○																
	・水位が上昇しやすいため、熊本県内において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業・事業の防災活動につながる。正確でわかりやすい防災情報の発信																	
	・特徴的な複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる。正確でわかりやすい防災情報の発信																	
	3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確保・強化																	
	水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用等の推進	○																
	毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○																
	市町長だけでなく、副市長、防災担当部長等とのホットラインの確立	○																
	3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																	
	多様な情報発信媒体等を活用した、幅広い年代の方々が確実に情報入手できる手段の検討・実施	○																
	携帯端末を活用したプッシュ型情報の普及・周知	○																
	関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎																
	報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	◎																
	3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																	
	毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○																
	毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○																
	出水時の河川監視情報等の共有	○																
ハード対策	関係機関が連携し、洪水発生時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備																	
	3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置	○																
	過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	○																
	3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充	○																
	防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討	○																
	3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支えるための水防資機材の備蓄計画の策定	○																
	備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模災害時に想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○																

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】宇城市・減災に係る取組工程表全体スケジュール		現時点												目標達成期限		令和元年8月8日更新	
作業項目		白川	緑川	29年度		30年度		31年度		32年度		33年度		備考			
幹事会 (○)				○	○	○											
協議会 (◎)					◎										・赤字: 取組内容の中で特に留意が必要な項目		
	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築 ・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築																
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施																
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○															
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○															
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○															
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底																
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成	◎														令和2年度中に完成予定	
	(広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成	◎															
	ハザードマップの普及・啓発															令和2年度中にハザードマップの更新を行うため、普及・啓発については令和3年度以降となる	
	地域版ハザードマップの普及・啓発															令和2年度中にハザードマップの更新を行うため、地域版ハザードマップ作成については令和3年度以降となる	
	水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発															令和2年度中にハザードマップの更新を行うため、普及・啓発については令和3年度以降となる	
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定	◎														令和2年度中にハザードマップの更新を行うため、L2対応の避難所候補、L2対応の避難所指定については令和3年度以降となる	
	1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化																
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○															
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施	○															
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○															
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施	○															
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施																
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○															
	緊急排水計画の策定	○															
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○															
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化																
	自治体の防災担当者間の連携促進	○															
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討																
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定																
	早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援															・企業向けのBCP研修が必要と考える。	
	地下街(地下空間)の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援															・L2による浸水想定について、地下街等施設管理者へ勉強会が必要と考える。	
	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																
	大規模氾濫時に防災拠点となる各市庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施	○															
	避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施	○															
ソフト対策	・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進 ・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進																
	2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																
	小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○															
	緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○															
	白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充															・水防災シンポジウム、川下り等で体験会	
	2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																
	白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター(白川わくわくランド)の利活用の促進																
	教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施	◎															
	市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育(市民講座、地域防災リーダー講座等)の実施	○															
	住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及	○															
	防災ステーションを活用した水防災教育等の実施	○															
	・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の確かな防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信 ・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																
	3-①関係機関との確かな情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																
	水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用促進	○															
	毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○															
	市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立	○															
	3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																
	多様な情報提供媒体(SNS等)を活用した、幅広い年代の方々が確実に情報を入手できる手段の検討・実施	○															
	携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	○															
	地域の防災に関する情報の広報誌、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○															
	関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎															
	報道機関を通じた避難情報等において確かな住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○															
	3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																
	毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○															
	毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○															
	出水時の河川巡視情報等の共有																
ハード対策	関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備																
	3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																
	過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	○															
	3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																
	防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討	○															
	3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																
	備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○															

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】御船町・減災に係る取組工程表全体スケジュール		令和元年8月8日時点												未更新
作業項目	白川	緑川	29年度		30年度		31年度		32年度		33年度		備考	
			8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月		12月
幹事会 (○)			○	○	○									
協議会 (◎)				◎									・赤字: 取組内容の中で特に留意が必要な項目	
・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築														
・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築														
1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施														
実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し		○												
水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施		○												
防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施		○												
1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底														
想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成		◎												
(広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成		◎												
ハザードマップの普及・啓発														
地域版ハザードマップの普及・啓発														
水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発														
想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定		◎												
1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化														
水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施		○												
自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施		○												
水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有		○												
水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施		○												
1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施														
排水施設の情報共有、排水手法等の検討		○												
緊急排水計画の策定														
大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施		○												
1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化														
自治体の防災担当者間の連携促進		○												
1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討														
大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定														
早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援														
地下街(地下空間)の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援														
要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援														
大規模氾濫時に防災拠点となる各市町村庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施		○												
避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施		○												
・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進														
・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進														
2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充														
小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充		○												
緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充		○												
白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充														
2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育														
白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター(白川わくわくランド)の利活用の促進														
教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施		◎												
市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育(市民講座、地域防災リーダー講座等)の実施		○												
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及		○												
防災ステーションを活用した水防災教育等の実施		○												
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の確かな防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信														
・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信														
3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化														
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用促進		○												
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施		○												
市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立		○												
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化														
多様な情報提供媒体(SNS等)を活用した、幅広い年代の方々が確実に情報を入手できる手段の検討・実施		○												
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知		○												
地域の防災に関する情報の広報誌、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進		○												
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備		◎												
報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施		○												
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施														
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認		○												
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施		○												
出水時の河川巡視情報等の共有														
関係機関が連携し、洪水氾濫時に斜かい経済・人命への被害を最小化するための施設の整備														
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置														
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置		○												
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充														
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討		○												
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定														
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定		○												

ソフト対策

ハード対策

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】甲佐町・減災に係る取組工程表全体スケジュール		8月 12月 4月 8月 12月 4月 8月 12月 4月 8月 12月												令和元年8月8日更新	
作業項目		29年度		30年度		31年度		32年度		33年度		備考			
幹事会 (○)															
協議会 (◎)													・赤字: 取組内容の中で特に留意が必要な項目		
	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築 ・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築														
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施														
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○											(継続的に実施)		
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○											・詳細版のタイムラインの検討。 ・関係機関等との勉強会や協議会が完成後、訓練の実施を検討。		
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○											・県主催の研修会などに積極的に参加。また防災担当職員以外の職員の防災力強化も必要と考える。		
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底														
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成	◎											・令和元年度に広域避難の検討と合わせ作成予定。		
	(広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成	◎											・広域避難の検討後に実施予定。		
	ハザードマップの普及・啓発												・L2対応のハザードマップの作成後に、全戸配布などして危険箇所の認知を図る。		
	地域版ハザードマップの普及・啓発												・広域避難の検討やL2対応のハザードマップの作成後に実施予定。		
	水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発												・避難経路の検討が必要。		
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定	◎											・L2に対応する広域避難の検討中に合わせて実施予定。		
	1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化														
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○											(継続的に実施)		
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施	○											・緑川水防演習の実施。		
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○											・総合防災訓練の中に盛り込むことを検討。		
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施	○											・出水期前に消防団行事として開催。		
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施														
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○											・浸水常襲地区の情報共有。		
	緊急排水計画の策定														
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○													
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化														
	自治体の防災担当者間の連携促進	○													
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討														
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定												・平成28年6月豪雨では、町の主要道路でもある国道443号線が浸水。		
	早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援														
	地下街(地下空間)の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援														
	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援												(継続的に実施)		
	大規模氾濫時に防災拠点となる各市町庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施	○													
	避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施	○													
ソフト対策	・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進 ・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進														
	2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充														
	小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○											・防災教育と合わせて緑川についての学習を行う。		
	緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○											・町の水害の歴史をテーマに町史歴史研究会を開催。		
	白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充														
	2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育														
	白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター(白川わくわくランド)の利活用の促進														
	教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施	◎											・ICT教育を活用した防災教育を検討中		
	市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育(市民講座、地域防災リーダー講座等)の実施	○											・町内の防災士を「自主防災組織指導員」に委嘱し、各行政区での防災講話を実施中であり、今後水防災教育を盛り込んでいく。		
	住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及	○											(継続的に実施)		
	防災ステーションを活用した水防災教育等の実施	○													
	・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の確かな防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信 ・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信														
	3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化														
	水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用促進	○											(継続的に実施)		
	毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○											(継続的に実施)		
	市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立	○											(継続的に実施)		
	3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化														
	多様な情報提供媒体(SNS等)を活用した、幅広い年代の方々から確実に情報を入手できる手段の検討・実施	○											・登録制メール配信事業の検討中		
	携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	○											・登録制メール配信事業の検討中		
	地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○											・出水期前には防災情報の入手方法などを周知するために、町広報紙に掲載		
	関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎													
	報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○													
	3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施														
	毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○											(継続的に実施)		
	毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○											(継続的に実施)		
	出水時の河川巡視情報等の共有												(継続的に実施)		
ハード対策	関係機関が連携し、洪水氾濫時に斜かい経済・人命への被害を最小化するための施設の整備														
	3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置														
	過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	○											・想定し得る最大規模の浸水の表示だけでは不十分とするため、避難場所を示す看板などの設置を検討		
	3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充														
	防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討	○													
	3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定														
	備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○											(継続的に実施)		

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】美里町・減災に係る取組工程表全体スケジュール		現時点												目標達成期限		令和2年1月21日更新				
作業項目		白川	緑川	29年度			30年度			31年度			32年度			33年度			備考	
幹事会 (○)				○		○													・赤字: 取組内容の中で特に留意が必要な項目	
協議会 (◎)																				
	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築 ・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築																			
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施																			
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し		○																	
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施		○																	
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施		○																	
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底																			
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成		◎																	
	(広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成		◎																	
	ハザードマップの普及・啓発																			
	地域版ハザードマップの普及・啓発																			
	水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発																			
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定		◎																	
	1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化																			
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施		○																	
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施		○																	
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有		○																	
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施		○																	
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施																			
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討		○																	
	緊急排水計画の策定		○																	
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施		○																	
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化																			
	自治体の防災担当者間の連携促進		○																	
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討																			
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定																			
	早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援																			
	地下街(地下空間)の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																			
	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																			
	大規模氾濫時に防災拠点となる各市町庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施		○																	
	避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施		○																	
	・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進 ・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進																			
	2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																			
	小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充		○																	
	緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充		○																	
	白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充																			
	2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																			
	白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター(白川わくわくランド)の利活用の促進																			
	教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施		◎																	
	市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育(市民講座、地域防災リーダー講座等)の実施		○																	
	住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及		○																	
	防災ステーションを活用した水防災教育等の実施		○																	
	・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の確かな防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信 ・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																			
	3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																			
	水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用促進		○																	
	毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施		○																	
	市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立		○																	
	3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																			
	多様な情報提供媒体(SNS等)を活用した、幅広い年代の方々確実に情報を入手できる手段の検討・実施		○																	
	携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知		○																	
	地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進		○																	
	関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備		◎																	
	報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施		○																	
	3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																			
	毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認		○																	
	毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施		○																	
	出水時の河川巡視情報等の共有																			
	関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備																			
	3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																			
	過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置		○																	
	3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																			
	防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討		○																	
	3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																			
	備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定		○																	

ソフト対策

ハード対策

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】熊本県・減災に係る取組工程表全体スケジュール		令和元年8月8日更新														
作業項目		白川	緑川	29年度		30年度		31年度		32年度		33年度		備考		
				8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月	12月	4月	8月			
幹事会 (○)				○	○	○										
協議会 (◎)					◎									・赤字：取組内容の中で特に留意が必要な項目		
ソフト対策	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築															
	・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築															
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施															
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○	○												関係機関との調整	
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○	○												関係機関との調整・情報共有	
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○	○												既存研修会に含めて実施への検討 既存研修会に含めて実施への執行 既存研修会に含めて実施	
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル（仮）の改善・検討及び周知・徹底															
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成														関係機関との調整・情報提供	
	（広域避難を考慮した）水防避難マニュアル（仮）の検討・作成	◎														
	ハザードマップの普及・啓発	○	○													
	地域版ハザードマップの普及・啓発	○	○													
	水防避難マニュアル（仮）の普及・啓発	○	○													
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定															
	1-③水防団（消防団）や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化															
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○	○													（継続的に実施）
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施	○	○													（継続的に実施）
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○	○													（継続的に実施）
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施															
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施															
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○	○													関係機関との調整・情報収集
	緊急排水計画の策定	○	○													関係機関との調整・情報収集
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○	○													関係機関との調整・情報収集
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化															
	自治体の防災担当者間の連携促進	○														（継続的に実施）
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討															
大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定															関係機関との調整・情報共有	
早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援																
地下街（地下空間）の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																
要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																
大規模氾濫時に防災拠点となる各市町庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施																
避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施																
・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進																
・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進																
2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																
小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充																
緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充																
白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充																
2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																
白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター（白川わくわくランド）の利活用の促進																
教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施																
市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育（市民講座、地域防災リーダー講座等）の実施																
住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及																
防災ステーションを活用した水防災教育等の実施																
・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の確かな防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																
・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																
3-①関係機関との確かな情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																
水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用推進																
毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施																
市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立																
3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																
多様な情報提供媒体（SNS等）を活用した、幅広い年代の方々が確実に情報を入手できる手段の検討・実施	○	○													併せて必要に応じ関係機関との調整・方法の検証 （継続的に実施）	
携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知	○	○													併せて必要に応じ関係機関との調整・方法の検証 （継続的に実施）	
地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○	○													併せて必要に応じ関係機関との調整・方法の検証 （継続的に実施）	
関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎	◎													併せて必要に応じ関係機関との調整・方法の検証 （継続的に実施）	
報道機関を通じた避難情報等において確かな住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○	○													併せて必要に応じ関係機関との調整・方法の検証 （継続的に実施）	
3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																
毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○	○													関係機関との調整 （継続的に実施）	
毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施																
出水時の河川巡視情報等の共有	○	○													関係機関との情報共有 （継続的に実施）	
関係機関が連携し、洪水氾濫時に斜かい経済・人命への被害を最小化するための施設の整備																
3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																
過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置																
3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																
防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討																
3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																
備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定																

ハード対策

現時点

目標達成期限

令和2年3月31日更新

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】九州地方整備局・減災に係る取組工程表全体スケジュール		8月 12月 4月 8月 12月 4月 8月 12月 4月 8月 12月												令和2年3月31日更新			
作業項目		白川	緑川	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	備考								
幹事会 (○)																	
協議会 (◎)																	・赤字: 取組内容の中で特に留意が必要な項目
	・白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築 ・緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築																
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施																
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○	○														(継続的に実施)
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○	○														
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○	○														
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底																
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成 (広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成	◎	◎														★H29.05.30 想定し得る大規模氾濫の降雨による浸水想定区域図の告示(国)
	ハザードマップの普及・啓発	○	○														
	地域版ハザードマップの普及・啓発	○	○														
	水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発	○	○														
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定																
	1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化																
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○	○														(継続的に実施)
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対しリスクが高い区間の共同点検の実施	○	○														(継続的に実施)
	水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有	○	○														(継続的に実施)
	水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施																
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施																
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討	○	○														
	緊急排水計画の策定	○	○														
	大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○	○														
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化																
	自治体の防災担当者間の連携促進	○	○														
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討																
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定																
	早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援																
	地下街(地下空間)の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																
	要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援																
	大規模氾濫時に防災拠点となる各市町庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施	○	○														★H29.05.30 想定し得る大規模氾濫の降雨による浸水想定区域図の告示(国)
	避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施	○	○														★H29.05.30 想定し得る大規模氾濫の降雨による浸水想定区域図の告示(国)
ソフト対策	・白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進 ・緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進																
	2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																
	小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○	○														
	緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○	○														
	白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○	○														
	2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																
	白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター(白川わくわくランド)の利活用の促進	○	○														
	教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施	◎	◎														
	市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育(市民講座、地域防災リーダー講座等)の実施	○	○														
	住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及	○	○														
	防災ステーションを活用した水防災教育等の実施	○	○														
	・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の確かな防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信 ・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																
	3-①関係機関との確かな情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																
	水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用推進	○	○														
	毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○	○														
	市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立	○	○														
	3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																
	多様な情報提供媒体(SNS等)を活用した、幅広い年代の方が確実に情報を入手できる手段の検討・実施	○	○														
	携帯端末を活用したプッシュ型情報の普及・周知	○	○														
	地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○	○														
	関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎	◎														
	報道機関を通じた避難情報等において確かな住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○	○														
	3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																
	毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○	○														
	毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○	○														
	出水時の河川巡視情報等の共有	○	○														
ハード対策	関係機関が連携し、洪水氾濫時に斜かい経済・人命への被害を最小化するための施設の整備																
	3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																
	過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置	○	○														★H29.05.30 想定し得る大規模氾濫の降雨による浸水想定区域図の告示(国)
	3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																
	防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討																
	3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																
	備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定	○	○														

【白川・緑川水防災意識社会再構築協議会】熊本地方気象台・減災に係る取組工程表全体スケジュール		現時点												目標達成期限		令和2年2月12日更新			
作業項目		白川	緑川	29年度			30年度			31年度			32年度			33年度			備考
幹事会 (○)				○			○											・赤字：取組内容の中で特に留意が必要な項目	
協議会 (◎)	<ul style="list-style-type: none"> 白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築 緑川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の策定及び、地域コミュニティの活性化による避難体制の構築と市町境を越えた広域避難体制の構築 																		
	1-①避難勧告等の発令に着目した水害対応タイムラインの検証・見直しや水害対応タイムラインに基づく、訓練の実施																		
	実水害や水防避難訓練を踏まえた水害対応タイムラインの検証・見直し	○	○															(継続的に実施)	
	水害対応タイムラインに基づく、関係機関が連携した水防避難訓練等の実施	○	○															熊本大学公開講座(マイタイムライン)への協力(12/1、12/8)	
	防災担当職員の防災スキル向上に向けた研修や訓練の実施	○	○															甲佐町職員研修での防災講座(6/18)	
	1-②想定し得る最大規模の洪水を踏まえたハザードマップや水防避難マニュアル(仮)の改善・検討及び周知・徹底																		
	想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域図に対応したハザードマップの作成 (広域避難を考慮した)水防避難マニュアル(仮)の検討・作成 ハザードマップの普及・啓発 地域版ハザードマップの普及・啓発 水防避難マニュアル(仮)の普及・啓発 想定し得る最大規模の降雨による浸水想定区域内での避難所の検討・指定																		
	1-③水防団(消防団)や住民団体等と連携した実効性の高い水防訓練の実施及び水防体制の強化																		
	水防団、自主防災組織、消防署等の関係機関が連携した水防訓練の実施	○	○															(継続的に実施)	
	自主防災組織、地域住民が参加する洪水に対するリスクが高い区間の共同点検の実施 水防団、河川管理者による水防資機材の情報共有 水防団の人材不足の解消、水防協力団体の募集・指定の促進等の検討・実施																		
	1-④大規模出水時における緊急排水計画の策定及び緊急排水に向けた整備・訓練の実施																		
	排水施設の情報共有、排水手法等の検討 緊急排水計画の策定 大規模出水時を想定した緊急排水訓練の実施	○	○															・訓練参加依頼に基づき可能な範囲で参加、今年度の依頼なし	
	1-⑤大規模災害を想定した広域的な連携体制の強化																		
	自治体の防災担当者間の連携促進																		
	1-⑥まちづくりと一体となった水害リスクを低減させる出水前後の対策の検討																		
	大規模出水時における緊急防災道路等の検討・認定 早期の社会機能回復に向けた民間企業BCP計画検討の支援 地下街(地下空間)の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援 要配慮者利用施設の避難確保計画の作成・避難訓練の実施・支援 大規模氾濫時に防災拠点となる各市町庁舎の機能維持及び機能向上の検討・実施 避難拠点となる学校等の機能維持及び機能向上の検討・実施																		
ソフト対策	<ul style="list-style-type: none"> 白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進 緑川の過去の水害や治水の歴史・教訓を継承するとともに、緑川の水害リスクを認識し、地域住民の主体的な避難活動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進 																		
	2-①水害の歴史や文化の記憶を風化させないための学習機会や出前講座等の拡充																		
	小中学校等と連携を図り、白川・緑川についての学習や出前講座等の実施・拡充	○	○															・龍田西小学校気象講座(9/1)、熊本大学理学部探検への協力(11/2)、熊本マリスト中学校への出前講座(12/16)	
	緑川の水害の歴史や文化への理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○	○															・その都度、水害の歴史に関連する気象資料の提供等の協力、本年度は依頼なし	
	白川に対する愛着や理解を深めるための啓発活動の実施・拡充	○	○															・その都度、水害の歴史に関連する気象資料の提供等の協力、本年度は依頼なし	
	2-②洪水リスク・防災意識の啓発・教育																		
	白川学習・水防災教育、川の安全な体験学習の「場」として白川地域防災センター(白川わくわくランド)の利活用の促進 教育委員会等と連携を図り、小中学校における白川や緑川についての学習・水防災教育等の実施																		
	市民向けの白川・緑川についての学習・水防災教育(市民講座、地域防災リーダー講座等)の実施	○	○															・自動強化キャリアバンスステージイベントへの協力(10/27、11/17)	
	住民団体・NPO等と連携した川の安全な体験活動の普及 防災ステーションを活用した水防災教育等の実施																	・白川水防災体験行事への協力(10/14)	
	・水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信 ・特徴の異なる複数の河川が流れる緑川流域において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動につながる、正確でわかりやすい防災情報の発信																		
	3-①関係機関との確実な情報共有のための緊急連絡体制の確認・強化																		
	水害対応タイムライン、水害対応チェックリストの活用促進	○	○															(継続的に実施)	
	毎年、出水期前にホットラインの訓練等の実施	○	○															・洪水予報対応演習を熊本河川国道事務所と共同で実施(5/9)	
	市町長だけでなく、副市町長、防災担当部長等とのホットラインの確立	○	○															・出水期前にホットライン(電話番号、担当者)確認を実施	
	3-②誰にでもわかりやすく、正確かつ迅速な情報提供の発信の強化																		
	多様な情報提供媒体(SNS等)を活用した、幅広い年代の方々へ確実に情報を入手できる手段の検討・実施 携帯端末を活用したプッシュ型情報等の普及・周知 地域の防災に関する情報の広報紙、ホームページ、大型ビジョン、庁舎掲示板、観光案内所等への掲載促進	○	○															・現時点では予定なし 土砂災害や洪水などの「危険度分布」が示す危険度の変化を伝える、プッシュ型の通知サービス(協力事業者によるメール配信やスマホアプリ)が、7月10日より順次開始 使用しているPCのOSのバージョンアップは実施しない意向から、2020年1月14日のwindows7のサポート終了に伴い気象情報提供は終了。	
	関係機関が提供する防災情報を一元的に集約した情報ツールの検討・整備	◎	◎															(提供終了)	
	報道機関を通じた避難情報等において確実な住民の行動を促すための情報提供の方法の検討・実施	○	○																
	3-③水防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施																		
	毎年、出水期前に水防団等の関係機関との連絡体制の確認	○	○															(継続的に実施)	
	毎年、出水期前に大規模な浸水の発生を前提とした演習の実施	○	○															・洪水対応演習 ・熊本県総合防災訓練への協力(11/24)	
	出水時の河川監視情報等の共有																		
ハード対策	関係機関が連携し、洪水氾濫時に社会経済・人命への被害を最小化するための施設の整備																		
	3-③大雨時の危険性の判断や避難活動に役立つ看板の設置																		
	過去の浸水実績を示した標識や危険性を訴える標識等の設置																		
	3-④住民へ確実に情報を伝えるための防災行政無線の調整・拡充																		
	防災行政無線の情報伝達状況の検証及び新設・増設等の検討																		
	3-⑤迅速かつ的確な水防活動を支援するための水防資機材の備蓄計画の策定																		
	備蓄している水防資機材等について現状を確認し、大規模氾濫時を想定した必要な資機材の量や備蓄計画の策定																		